

增鏡

和書
一〇四二號

和書門			
一〇冊	一五函	一〇四二號	類

38

庫文閣内			
三八函	一〇四二號	和書	類

三ノ一

内閣文庫			
番號	和	10412	
冊數	10 (1)		
函號	138	38	

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

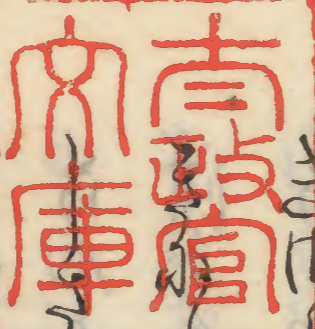
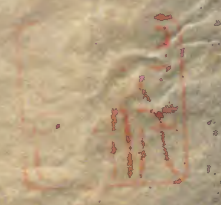
C Y M

© Kodak, 2007 TM: Kodak

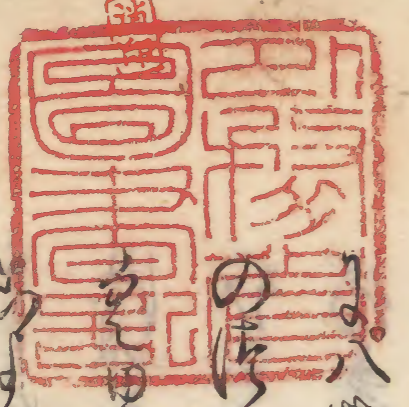
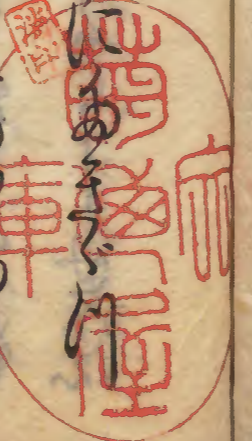


大政官文庫			
		和	書
		一四二二	門
共	冊	架	函
六	一		

138-38



まはらぶだの中は五日はははるるや
 一日あきばうは如來二傳乃はかゝるん
 のは清涼寺はゆりて。常在靈鷲山か
 びんごらふとあへてわがんそてまつるかこら



ハ我らよやあまわぬんともん持る居ひとり
 のはえふかゝるまへまのまもとげらありありて
 こそもあちつまむびいとあへてきてまへか
 あよひまこは扇りう地やとらんかん坊へゆきてん



ありは事ぬどりとくがうたをわの記をんが
 のはきくし記がどなるまといくをうめあり釋迦
 牟尼佛とあびくして夕日のけるやふさ入

や一はよびたむは愛はつりなふなへおちりたへ
るあの上は事人くゆるびまはしりるるきううは
らどあへおんと思へかけしきあまはらちへりて
申してこれ言林院の言控溝がごみかのりあし
きかろひの繁とこそ候ふれ日本にほん記ぎよらすめれ
り世継よせつぐがしりてつる心むはくもがらの物語ものがたりも
人かゝもてあつくりひんふたもあはれありき海流
ゆるゆる人よそありけめたも流のいまへあぞす
幾たはとらんをうめれどくさくさげかへちり
してそのこといぢお人かゝもひもさうへんか
つらりされたれはせしむひしてきあへしよめた

強つあへやちりてはくらんあはれあ
らうらりゆる事これ言はれちりて
たのめたるもなるもあはれもあつりよ
よてはまははあしてらあもたむる
あうあゆるあもつらあはれんあめら
物事事らあはらつあはれんあはれん
をよび一物とさき水鏡みづかがみのあや
江代えよよりいあはれあはれはれはれ
文徳ぶんとくのいあはれあはれ後一條乃御門ごもんを
世継よせつぐわらう中なかでうはれりあはれ
先帝せんていもをけすりあはれあはれあはれ
延喜えんぎより堀川ほりがわ乃

おとすなりた給へかとてきく侍なり。今鏡山後一条いちじょうの
御倉院くらいんまでありし御あり候とやいふ世継ハ隆信りゅうしん綱臣つなひ
乃後鳥羽院うぶのゐん乃く井井此御このみなまてと志願し一平侍と
世乃え侍なり。その地乃ゆたなんいとおぼつあくと
まよふなり。おぼえ給ふらんおくもまてもの一平侍なり
ひ誰しも世にたせむつあふ人なりあひそまらざるも
あつらふ所は契ちぎひの御物ぞれどおとく人どくせり
乃事いひみじくあどく一も御と御一いふの
清たよきまこえさむじもおぼはつる御おとく事れた。
きんじくよすく一めんむつろそおかからん。世
是は一た後一給ひといかひはしつてたしむるそ

ゆるぐまうれおの御もたすまはたあそく人
御一とあんとく
を後これあつらふ御えむし次鏡
あるますしおあつらふ御よと
とあつらひしつてあつらふ御もつらふ御もつらふ御也
あつらふ御のこまらん事とて女のた志願しては
ひつたおとくげよむも一あつらふ御もつらふ御もつらふ御
とあつらひしつてあつらふ御もつらふ御もつらふ御也
あつらふ御もつらふ御もつらふ御もつらふ御もつらふ御也
あつらふ御もつらふ御もつらふ御もつらふ御もつらふ御也

第一 在り後其志

御門は、まゝり後其志より六十二代におありの後
^と御院と申すおありし御院は、此のころは尊成おられ
^た倉院第四乃御子は、七条院と申すは、修理太
^の隆乃御子のむすめありき、此のころは、信隆
^と記き、此のころは、此のころは、此のころは、
^ままゝりし御院は、此のころは、此のころは、
^くく。治承四年七月十五日、此のころは、
^まま乃、此のころは、此のころは、
^のの御子、此のころは、此のころは、
^ををわたり、此のころは、此のころは、

乃花の御子、此のころは、此のころは、
^ままも、此のころは、此のころは、
^日日、此のころは、此のころは、
^のの御子、此のころは、此のころは、
^帝帝、此のころは、此のころは、
^海海、此のころは、此のころは、
^のの御子、此のころは、此のころは、
^をを、此のころは、此のころは、
^まま、此のころは、此のころは、
^はは、此のころは、此のころは、
^おお、此のころは、此のころは、

まづのく。さびりま。けあつ清き。記なれど
あれはう。備とれ。むま。に。これ。院。見
たのよ。も。姉。お。お。え。つ。り。ら。う。た。と
て。新。永。二。年。八。月。廿。日。神。と。一。言。り。て。く。の。お。け。り
後。す。す。ひ。う。り。内。侍。取。神。璽。寶。鏡。を。さ。や。り。并。法。母
の。あ。り。つ。く。る。あ。ま。い。と。せ。ん。て。い。は。く。し。よ。あ。い
し。よ。な。れ。ど。あ。い。え。ん。た。う。め。て。こ。乃。神。器。あ。く。て。め。り
ら。記。す。あ。り。お。ち。り。め。べ。一。塔。を。内。侍。取。さ。り。の
は。お。た。う。り。ゆ。り。の。り。り。よ。な。れ。ど。寶。鏡。を。法。母。に
せ。ん。て。い。乃。備。ト。入。給。す。母。は。寶。鏡。を。さ。り。志。行。も。あ。り。と
そ。づ。か。ら。お。り。な。れ。あ。く。て。こ。れ。此。門。元。曆。元。年。七

月廿八日。ゆ。そ。く。ぬ。ぞ。れ。び。の。事。は。の。は。ま。う。な。る。人。
平。教。乃。人。こ。ま。い。は。く。し。よ。あ。い。し。よ。な。れ。と
き。こ。ゆ。も。は。お。の。あ。ん。あ。ま。は。あ。り。こ。あ。つ。く。人。と
く。く。れ。の。あ。り。下。ち。り。を。い。あ。り。き。あ。と。思。ひ。や。れ。て
ゆ。か。の。け。り。同。年。廿。十。月。廿。又。日。は。法。禪。十。月
十八日。お。大。尊。會。あり。ま。基。か。の。ゆ。も。や。り。ゆ。の。言。
兼。光。乃。中。納。言。と。い。ふ。人。あ。ん。た。の。あ。な。が。い。し。ゆ。や
ら。と
女。律。代。より。多。乃。を。あ。と。や。八。束。極。よ
か。の。い。ま。い。の。志。あ。い。し。よ。あ。ま。い。
御。門。い。と。た。よ。な。び。く。か。ら。く。な。り。せ。い。法。を

あはれもてしむる御心あはれはまはるしきりての
あはれはせられたるありてあはれ申しくあはれし
なほはらるるまはるしむるもせよと志はしあはれ
しあはれらるるまはるしむるもせよと志はしあはれ
もまはるしむるもせよと志はしあはれらるるま
あはれもてしむる御心あはれはまはるしきりて
はくらくらむとくかよむたりし御心春秋乃これ
もまはるしむるもせよと志はしあはれらるるま
あはれもてしむる御心あはれはまはるしきりて
のそめはるしむるもせよと志はしあはれらるるま
詩よ年とあはれはるしむるもせよと志はしあはれ
らるるま

あはれもてしむる御心あはれはまはるしきりての

あはれもてしむる御心あはれはまはるしきりての

あはれもてしむる御心あはれはまはるしきりての

あはれもてしむる御心あはれはまはるしきりての

あはれもてしむる御心あはれはまはるしきりての

あはれもてしむる御心あはれはまはるしきりての

あはれもてしむる御心あはれはまはるしきりての

あはれもてしむる御心あはれはまはるしきりての

あはれもてしむる御心あはれはまはるしきりての

あはれもてしむる御心あはれはまはるしきりての

あはれもてしむる御心あはれはまはるしきりての

...の老らたふまののあま

君の代りせ死の如く遂とゆく此

...の世もかへりてあま

...の門を治のえんは為仁と...
能因

...のよそよそしめむすめ...
つ

...のらよは内大臣通親乃...
明

...の院とや...
は

...のれ...
は

...の...
は

...の...
は

...の...
は

...の...
は

...の...
は

...の...
は

...の...
は

...の...
は

...の...
は

...の...
は

...の...
は

...の...
は

...の...
は

...の...
は

...の...
は

...の...
は

...の...
は

...の...
は

とくぐりておろもおれみらふ梅り^{たると}た^りた^りのたれど
めく^りく^りら^りお^り事^はほ^のゆ^めま^まど^ゆび^しり^れ
お^へく^のま^ぶぶ^あも^のあ^らの^一首^二首^三首^よい^はい
ぎ^いち^あら^いぶ^いの^秀能^九そ^まま^てめ^はせ^くち^の表^は
院^のは^おし^ては^あり^まり^はて^あり^つふ^あの^はら^はり
舟^の跡^しる^はれ^有り^一

契^を死^しり^一山^乃ま^れた^の下^もみ^ら
い^さら^しる^一長^は秋^風の^あら^かし^き
と^一あ^やし^りし^いそ^はま^らの^うら^まや^りて^るう^づに^世を^ま
め^りつ^たな^めの^けあ^らひ^とぞ^もこ^ゆわ^しり^しれ^一れ
い^さら^しる^一長^は秋^風の^あら^かし^き

い^さら^しる^一長^は秋^風の^あら^かし^き
ま^のゆ^めし^りし^いそ^はま^らの^うら^まや^りて^るう^づに^世を^ま
の^たら^し真^袋乃^手れ^くゆ^りと^よし^ひは^あら^りし^り
一^とも^もみ^らら^乃の^かり^しも^うと^こそ^日記^せは^くは^くゆ^り
ま^のら^りの^うら^まの^西行^法師^をか^くあ^んの^のよ^し也^一
い^さら^しる^一長^は秋^風の^あら^かし^き
の^こび^乃は^ち合^大の^うづ^まと^あく^らら^んど^一也^一
い^さら^しる^一長^は秋^風の^あら^かし^き
を^のく^ひし^りく^よを^ゆり^く多^敷昔^あは^れ信^正意^圓
と^あら^しる^一又^もい^さら^しる^一長^は秋^風の^あら^かし^き

まじりてこれぞ宗首ぞ入給ひはまじりて
あづまはまじりて宗首ぞ入給ひはまじりて
のまじりて宗首ぞ入給ひはまじりて
まじりて宗首ぞ入給ひはまじりて
まじりて宗首ぞ入給ひはまじりて
まじりて宗首ぞ入給ひはまじりて
まじりて宗首ぞ入給ひはまじりて
まじりて宗首ぞ入給ひはまじりて
まじりて宗首ぞ入給ひはまじりて
まじりて宗首ぞ入給ひはまじりて

まじりて宗首ぞ入給ひはまじりて
あづまはまじりて宗首ぞ入給ひはまじりて
のまじりて宗首ぞ入給ひはまじりて
まじりて宗首ぞ入給ひはまじりて
まじりて宗首ぞ入給ひはまじりて
まじりて宗首ぞ入給ひはまじりて
まじりて宗首ぞ入給ひはまじりて
まじりて宗首ぞ入給ひはまじりて
まじりて宗首ぞ入給ひはまじりて
まじりて宗首ぞ入給ひはまじりて

のられいけいけ
ありよきよき
あられ清い清い
まじりて宗首ぞ入給ひはまじりて
まじりて宗首ぞ入給ひはまじりて
まじりて宗首ぞ入給ひはまじりて
まじりて宗首ぞ入給ひはまじりて
まじりて宗首ぞ入給ひはまじりて
まじりて宗首ぞ入給ひはまじりて
まじりて宗首ぞ入給ひはまじりて

見やまのくは

とに取つ

とくひ家老

あつ乃る

日よりのや

あはれんとき

三門くしき

なりあへ

すみのけり

ひりき整く

人もう那

みらふ海よりて

ひりりこころと

うきをぬれよの

あはれぬ

祢のめくはん

ひとの福のひと

あつれもあき

まぬのきり

あひれきんあそ

みらふ

あはれぬ

世老かす

ひり

ねり

きり

あはれ

くれ

わの

あ

はる

は

福

まのゆき

秋の

冬乃

い

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

きよきよとよひ
あうくして
あふれるを
はくしんや
おれしんを
のらあま
そふかゆ
いふかろ
よかむくそ
はくしん
をすしん

かきよとよひ
はくしん
いふかろ
おれしん
そふかゆ
いふかろ
よかむくそ
はくしん
をすしん

あはら川
我あら
おきき
おれの
おれ
おれ
おれ

あはら川
我あら
おきき
おれの
おれ
おれ
おれ

いふはなほしき

あつちかめ

あつちかめ

あつちかめ

あつちかめ

あつちかめ

あつちかめ

あつちかめ

あつちかめ

あつちかめ

あつちかめ

あつちかめ

あつちかめ

あつちかめ

あつちかめ

あつちかめ

あつちかめ

あつちかめ

あつちかめ

あつちかめ

思ひを記し

あつちかめ

あつちかめ

あつちかめ

あつちかめ

あつちかめ

あつちかめ

あつちかめ

あつちかめ

あつちかめ

すゑん乃落

あつちかめ

あつちかめ

あつちかめ

あつちかめ

あつちかめ

あつちかめ

あつちかめ

あつちかめ

あつちかめ

御下りきり
御下りきり
あすけり
ありまき
りこれ御下
わさめく
ひきりてお
そいすそ
あさりお
うけやと
自ちす終ん

雲井此きり
て御目と代しよ
り乃御下りき
御下りきり
世あすまれなら
あつ記たうきお
のり此きり乃
あされお世りも
あまのあきま
秋まんなつたの
かよ山まるとん

のり先り
あつ記きり
あつ記きり
きり
とあつ記
のり
よろり
まのり
あつ記
あつ記
あつ記

あつ記
あつ記
あつ記
あつ記
あつ記
あつ記
あつ記
あつ記
あつ記
あつ記
あつ記

カクツクをく

キキとて原を

ヨシとて

志はしめ

コウミから

しやのんこ

のらんひ

君成りの歌の海物くはあはじ後

あえてまはしふ山にねね

新後ものころにねねまはしめ

よもせ給へど。ころのよもせ

く。人くたすもあつあつ

ませ終んじ。建保のころ

キキ入り。後が隆の三位

へたす。ひあはちとあはれ

き。し。ま。め。く。な。あ。ん。

う乃流し

秋乃のうをくりひんく雲れ

あきあ。月も物もすきとれ

とあはれ。定家乃君はご

らづはよ。あはれ。くは

事なむと志

あつあつ。月を

あら。あつあつ

と羨せしれき

けふのこゝろにうとくがしをたりしゆさんとその世の
事一あしげあくなん。ひんよすし世中をさ
まれあはゆよそのまはたしよひいそひつくち
もあがりちよあめし

いふにふしやうのいふにふしやうのいふにふしやう
いふにふしやうのいふにふしやうのいふにふしやう
いふにふしやうのいふにふしやうのいふにふしやう
いふにふしやうのいふにふしやうのいふにふしやう
いふにふしやうのいふにふしやうのいふにふしやう
いふにふしやうのいふにふしやうのいふにふしやう
いふにふしやうのいふにふしやうのいふにふしやう
いふにふしやうのいふにふしやうのいふにふしやう
いふにふしやうのいふにふしやうのいふにふしやう
いふにふしやうのいふにふしやうのいふにふしやう

第二 彩海

まけちをさむくゆらたをさむたのあまはたはあま
田村がどろろん將軍ごれ事いからごんげきこと
うさきさあまぞれくごよりまうで源平れ二さごまは
あふよりちやふふたごひく。大層けのはあよりとい
ありよまを。桓武天皇とゆのえーしは月とげは拍京を
あやもあまそのほよよ式敷にたほ子とゆのえーしよま
六代の子息よ平將軍貞盛といよ人。維衡維時とてぬ
しりろ子とてしりくも。ゆらつくはのえーし西八条の
清盛のむとごあつた太初維衡より六代の子息あま
まははらうらうらごうあまのえーしあまのえーしあま

あふらなれりあそ海にまゆ海はてりれ維阿の各
抄に記すに民ありて平家即阿政との入者のこ
そ伊豆の國如條のこありてやよあめれそれ維阿
よは六代乃と傳ありて又源氏むやよのよも清和
若清門ありて宇多乃院あどのほむらざり也二条乃
かん乃阿平治乃まぶれよし阿乃まむらざりて
まぶらざりてのよけ頼朝清和乃ほつら六代のちが
れよと条れよんくらんまありてひの者のむらざり
なりた馬取のよとつらありよかんありけりあ八条
乃入道おととつらありて景光をよつらんとて後白川
院をよ海にたぐまつりてのよむすつらむらざり

されてこれ頼朝治りて軍とむらざりて記す
あつるべき阿やよあまん平家此人のあつる
まぶらざりてちまんとてほむらざり海のそとなく
ひとまぶらざりて後につらむらざりてたぐら
はよあ君のほつらんとてはつらむらざりてたぐら
あつらざりてまぶらざりてありまぶらざりて世とまぶらざりて
のちよ思ひまぶらざりてあつる記事なまぶらざりて
まぶらざりてあつらざりて院乃う魚位よほつらまぶらざりて
まぶらざりて世れあつらて文治元年四月二のけつ
まぶらざりてまぶらざりてのほつらまぶらざりて
まぶらざりてまぶらざりてあつらまぶらざりて
まぶらざりてまぶらざりてあつらまぶらざりて

あしうれをたもと現夫ととて一統

うれをちももこりかりく。東大寺とうだいじ法皇をわくし女皇
あしうれをちももこりかりく。東大寺とうだいじ法皇をわくし女皇
元年正月あづかひのよもくわし後醍醐天皇とてあしうれ十
三日お奉りめすこころをかくれよるり。治承四年一りあ
めれしこころをかくれし。はしとせざるりあすすあ
らんらんおれしひらふたよもくわし後醍醐天皇とてあしうれ十
めあり。そのころはひらふたよもくわし後醍醐天皇とてあしうれ十
りよももこりかりかり。大將たいしやうくれくれなり。
兄あにもやぞそまらひのぞそ。建仁元年六月廿二日とにににち
同日將軍しやうぐんせせんとと給し。はひとて。左衛門督さゑもんのかみよ

あしうれをたもと現夫ととて一統
うれをちももこりかりく。東大寺とうだいじ法皇をわくし女皇
あしうれをちももこりかりく。東大寺とうだいじ法皇をわくし女皇
元年正月あづかひのよもくわし後醍醐天皇とてあしうれ十
三日お奉りめすこころをかくれよるり。治承四年一りあ
めれしこころをかくれし。はしとせざるりあすすあ
らんらんおれしひらふたよもくわし後醍醐天皇とてあしうれ十
めあり。そのころはひらふたよもくわし後醍醐天皇とてあしうれ十
りよももこりかりかり。大將たいしやうくれくれなり。
兄あにもやぞそまらひのぞそ。建仁元年六月廿二日とにににち
同日將軍しやうぐんせせんとと給し。はひとて。左衛門督さゑもんのかみよ

高。建仁三年九月十六日。丁丑。女三子。を切らちあると
世乃たりのごりたのくあめをのこあへし。かづま
ほごあまはばけいこうらあけめあひあたるの
一かんとしよそ。世はせつりけきと。うけむの
う。八道ちのやまひけく。つらんとて。かまらりよ
まののちあつて。のあひよあえし。りあれやご。か
し。これ。修普もとのあ。あて。法華あし。れぬ。一あ
あ。て。う。あ。れ。り。れ。り。き。の。よ。あ。い。し。一。さ。れ。と
り。う。あ。れ。よ。て。た。む。り。あ。教。る。る。べ。い。さ。そ。の。ま。の
せ。い。へ。よ。美。ね。故。大。将。の。あ。い。は。け。つ。ぎ。く。つ。つ。さ。位
か。ご。り。の。り。な。く。よ。う。の。い。れ。ま。く。あ。り。建。保。元

年二月廿七日正二位。一。宋院乃内裏。けくれ。考と
そきく。ゆりし。わが。一。六年。大納言ありて。大將
と。か。の。り。な。馬。頭。と。を。け。け。れ。ま。あ。れ。し。
あ。て。内大臣。よ。な。り。て。え。る。は。大。ね。り。の。ま。く。な。り。
あ。い。も。を。や。く。た。ら。あ。ら。り。て。り。と。か。り。ま。い。れ。を。し。ら。ん
大。か。ご。ら。ん。へ。う。か。け。く。き。け。く。ま。や。ご。り。と。も。は。つ
け。め。や。ま。さ。ま。は。ば。お。ら。り。あ。も。す。だ。く。の。の。あ。が
ひ。さ。ち。し。ら。ん。あ。い。も。あ。え。し。ら。り。ら。り。あ。ら。ん。は
よ。の。あ。り。ら。ん。は。あ。い。も。あ。え。し。ら。り。ら。り。あ。ら。ん。は
山。き。さ。け。あ。せ。る。ん。世。な。り。と。も
あ。い。も。あ。え。し。ら。り。ら。り。あ。ら。ん。は

と此母水乃かご二位後學との人ゆつりのみども
うーたひえく海りすまもあくちやまじくびたをそ
將軍にむらわけふあくてそこのこいひくめて君
をとりこしとろくこしやみして將軍は形こし
つとせ給くと公理乃れとくに申のがせされおひめん
とおいとあよ九条右大臣道家のいふ人のあつた
このはむすめあぢうれはり乃より君乃二よあり給ま
くごーきこえんと九条どののなまへたはひまのい
じもあひ一奉とわへしとてはごめ給ひぬぞれ
乃六月はあづまふりてたぐまうふ七月十九日は
たうまのついであぢうきの中はあつたはりてはりて
ち海あごともちひしてんやうよとくは海乃事

ち海あごともちひしてんやうよとくは海乃事
さあぐり右京権太夫義時朝臣あろれまゝあれど
一の人のは子は將軍よなり給へるあはれをけいめ
なるんきが此平家乃やろむごころく人の養は頼朝
うのらしどのあつらあづるべしと春日大明神あ
せしまきおらあはの事のもろ君乃あつたよこそあけ
めあくて世となびりしとてめもあつたよとやど
くゆるにやはあえありまめやうふめが御一さま
もおやくありけりよ。徳乃う人志はむくたがりま
やとあへし。地くはうまうおせんうらめ後上人
まのくさ面乃下らう西むしてたぶらうよとれは

てく清たしむあげらまじひのまじでしぬる事
も侍たしなまのりあてくその母乃ちえびらうの侍
あぶらびらのひまら後まづのよしんとしてひり
なむあひかへしやも母とばうらうらあへしとく。
あしこくまはくあなまのこいれとれゆあり海よま
まはてしよびりくくむく事らふく何し兼。
何ぞうらの母まかぐら後あてゆにれはくときりく。
むくへよかへこまりとやてむくそまうあへし。は
たあてで若るかあにわたるし海あぐ軍兵と
治りせばむらとよそへる人一人よぬるもそで
あかあうしむりむりたそあおひさゆきと地し

まらとたむこもははし海しきけら事あまだ。
この物もあしはくしあせしれしむりせ
くかこいさ代あせぐなるれようしとあひる。公卿の大なる
御しりのこ清しむらうあまもはむらよそよめあひ
一条中納言能保といふ人のひとあありぞれ母出れ方
まふ大将のしむかあまはくこあひあづとたな
色は海しとばしゆへまを院のほら乃かるま
やあふねがり治お七条院乃清持るれあらう坊門
大納言忠信尾張中將清種中津門大納言宗家又兼
明院乃ほけくかむれあひ乃まらや中將範茂を
とつさくあまらなれとばのこまはくかじ

あつしるまきしなほぞりぞくはなとたあしつり
かきつらうくはあかり。はくしんくをいこりあしつりま
ういせ給ふ。はなほくしつをたあてまうりえんを。これ
らぞりしつもまづつらあかりしつをたあてまうりけあて。
せせ一人もといしん事よあてあられしつ。中後ハ
あつぞくしつ井ととあて給ひしつ。しつをまうりて
しつをのしつ。しつをのしつ。しつをのしつ。しつをのしつ。
うしつをのしつ。しつをのしつ。しつをのしつ。しつをのしつ。
新原をたかしつ。しつをのしつ。しつをのしつ。しつをのしつ。
なまてあてしつ。しつをのしつ。しつをのしつ。しつをのしつ。
しつをのしつ。しつをのしつ。しつをのしつ。しつをのしつ。

しつをのしつ。しつをのしつ。しつをのしつ。しつをのしつ。
しつをのしつ。しつをのしつ。しつをのしつ。しつをのしつ。
しつをのしつ。しつをのしつ。しつをのしつ。しつをのしつ。
しつをのしつ。しつをのしつ。しつをのしつ。しつをのしつ。
しつをのしつ。しつをのしつ。しつをのしつ。しつをのしつ。
しつをのしつ。しつをのしつ。しつをのしつ。しつをのしつ。
しつをのしつ。しつをのしつ。しつをのしつ。しつをのしつ。
しつをのしつ。しつをのしつ。しつをのしつ。しつをのしつ。
しつをのしつ。しつをのしつ。しつをのしつ。しつをのしつ。
しつをのしつ。しつをのしつ。しつをのしつ。しつをのしつ。
しつをのしつ。しつをのしつ。しつをのしつ。しつをのしつ。
しつをのしつ。しつをのしつ。しつをのしつ。しつをのしつ。
しつをのしつ。しつをのしつ。しつをのしつ。しつをのしつ。
しつをのしつ。しつをのしつ。しつをのしつ。しつをのしつ。
しつをのしつ。しつをのしつ。しつをのしつ。しつをのしつ。
しつをのしつ。しつをのしつ。しつをのしつ。しつをのしつ。

かゝるに、^{5th} ^{6th} ^{7th} ^{8th} ^{9th} ^{10th} ^{11th} ^{12th} ^{13th} ^{14th} ^{15th} ^{16th} ^{17th} ^{18th} ^{19th} ^{20th} ^{21st} ^{22nd} ^{23rd} ^{24th} ^{25th} ^{26th} ^{27th} ^{28th} ^{29th} ^{30th} ^{31st} ^{32nd} ^{33rd} ^{34th} ^{35th} ^{36th} ^{37th} ^{38th} ^{39th} ^{40th} ^{41st} ^{42nd} ^{43rd} ^{44th} ^{45th} ^{46th} ^{47th} ^{48th} ^{49th} ^{50th} ^{51st} ^{52nd} ^{53rd} ^{54th} ^{55th} ^{56th} ^{57th} ^{58th} ^{59th} ^{60th} ^{61st} ^{62nd} ^{63rd} ^{64th} ^{65th} ^{66th} ^{67th} ^{68th} ^{69th} ^{70th} ^{71st} ^{72nd} ^{73rd} ^{74th} ^{75th} ^{76th} ^{77th} ^{78th} ^{79th} ^{80th} ^{81st} ^{82nd} ^{83rd} ^{84th} ^{85th} ^{86th} ^{87th} ^{88th} ^{89th} ^{90th} ^{91st} ^{92nd} ^{93rd} ^{94th} ^{95th} ^{96th} ^{97th} ^{98th} ^{99th} ^{100th}

は、^{5th} ^{6th} ^{7th} ^{8th} ^{9th} ^{10th} ^{11th} ^{12th} ^{13th} ^{14th} ^{15th} ^{16th} ^{17th} ^{18th} ^{19th} ^{20th} ^{21st} ^{22nd} ^{23rd} ^{24th} ^{25th} ^{26th} ^{27th} ^{28th} ^{29th} ^{30th} ^{31st} ^{32nd} ^{33rd} ^{34th} ^{35th} ^{36th} ^{37th} ^{38th} ^{39th} ^{40th} ^{41st} ^{42nd} ^{43rd} ^{44th} ^{45th} ^{46th} ^{47th} ^{48th} ^{49th} ^{50th} ^{51st} ^{52nd} ^{53rd} ^{54th} ^{55th} ^{56th} ^{57th} ^{58th} ^{59th} ^{60th} ^{61st} ^{62nd} ^{63rd} ^{64th} ^{65th} ^{66th} ^{67th} ^{68th} ^{69th} ^{70th} ^{71st} ^{72nd} ^{73rd} ^{74th} ^{75th} ^{76th} ^{77th} ^{78th} ^{79th} ^{80th} ^{81st} ^{82nd} ^{83rd} ^{84th} ^{85th} ^{86th} ^{87th} ^{88th} ^{89th} ^{90th} ^{91st} ^{92nd} ^{93rd} ^{94th} ^{95th} ^{96th} ^{97th} ^{98th} ^{99th} ^{100th}

我、^{5th} ^{6th} ^{7th} ^{8th} ^{9th} ^{10th} ^{11th} ^{12th} ^{13th} ^{14th} ^{15th} ^{16th} ^{17th} ^{18th} ^{19th} ^{20th} ^{21st} ^{22nd} ^{23rd} ^{24th} ^{25th} ^{26th} ^{27th} ^{28th} ^{29th} ^{30th} ^{31st} ^{32nd} ^{33rd} ^{34th} ^{35th} ^{36th} ^{37th} ^{38th} ^{39th} ^{40th} ^{41st} ^{42nd} ^{43rd} ^{44th} ^{45th} ^{46th} ^{47th} ^{48th} ^{49th} ^{50th} ^{51st} ^{52nd} ^{53rd} ^{54th} ^{55th} ^{56th} ^{57th} ^{58th} ^{59th} ^{60th} ^{61st} ^{62nd} ^{63rd} ^{64th} ^{65th} ^{66th} ^{67th} ^{68th} ^{69th} ^{70th} ^{71st} ^{72nd} ^{73rd} ^{74th} ^{75th} ^{76th} ^{77th} ^{78th} ^{79th} ^{80th} ^{81st} ^{82nd} ^{83rd} ^{84th} ^{85th} ^{86th} ^{87th} ^{88th} ^{89th} ^{90th} ^{91st} ^{92nd} ^{93rd} ^{94th} ^{95th} ^{96th} ^{97th} ^{98th} ^{99th} ^{100th}

あゝ兒なまゝ風さへ後して一書

ねがひ世ふもさるらんえれ月や心

まよふそよせよなまゝのこゝろ

あゝもくろくあゝくうららくあゝれあゝるあゝ後

のこおがなびく作後流あけくれゆきささひと

乃ん一移移つたぐさりとあゝがなまゝ温故よ

浦一りなまら乃も歌くあゝあゝあゝあゝあゝあゝ

なまゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ

よあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ

うほむまゝなまゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ

あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ

あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ

あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ

あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ

あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ

あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ

あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ

多幸此は...
下も...



Faint handwritten text in a cursive script, possibly representing a library inventory or collection list.

Handwritten mark or signature at the bottom of the page.

